



これからの仕事を考える

心あったかニュース

コロナ禍で雇用状況が深刻ななか、共同労働という内容をNHKで放送していました。新しい仕事の形として面白いなど感じましたので内容を紹介します。石山翔太さん(25)は、コロナ禍で失業していましたが、去年10月、ハローワークの紹介で今の仕事に就きました。石山さんの勤め先は、協同労働で運営される団体です。手がける事業は、介護施設の送迎バスの運行や、ヘルパーの派遣、清掃など。220人が働き、年間およそ5億円を売り上げています。協同労働の最大の特徴は、働く人たちが経営方針を話し合い、意見を反映させることです。映像では、赤字の売店を閉めるかどうかの話し合いをしていました。石山さんは以前、食品関係の会社で正社員として7年間働いていました。しかし、体調が悪くても休みを取ることもできず、退職。その後、非正規雇用の仕事を転々としてきました。石山さん最初の仕事をやっていたときは機械

じやないですけど、命令されて、上から言われて、物事をぼんぼんやるだけの感じだったんですけど。ここに入ってからは、みんなで相談して、みんな協力してやるというのが。ここで働けて良かった「みんなが。ここで働けば、現場でつかんだ客のニーズをいち早く事業化できるのも、協同労働の特徴です。急な体調不良でも、送迎してほしいという客の声を聞いた石山さん。臨時の送迎チームを作りました。埋もれていたニーズに応えたことで、事業の収益は増加。石山さんの給料は、正社員のとくと同じくらいにまで増えました。それにもまして石山さんは、仲間たちと新たな仕事を生み出せたことに、大きなやりがいを感じたといいます。協同労働の現状に詳しい、明治大学教授の大高さんは、そもそも私たちが今、働く意味というのをなかなか見出しにくくなっている。これは一般企業で働いている方もそうだと思うのです。働く意味の空洞化と言ってもいいと思うのですが、このような状況が起きています。そういう状況の中で自分たちで出資して、みんな話合って、そして経営に主体的に関わるような協同労働がまさに、社会に役に

立ついい仕事をした
いと思ってる人たちの感性をつかんだ
というのはあるかな
と思っっています。」「また
去年12月に新たに
成立しました、労働
者協同組合法で法律
面でも整備されたこと
によって、派遣業を
除いて、さまざまな事
業を行うことが可能
になります。この協同
労働、近い将来さらに
広がると思われる
ます。」と語っています
した。クローズアップ
現代より)

編集後記

みんなが会社のことを、責任をもつて考えて、より積極的に参加することは、一人の経営者の時よりパワーがあると思いましたが、やらされている感覚からやりたいへの移行は今よりいきいきしたものになっていくなど感じました。